

2025 年度学習院大学史学会総会

第 41 回学習院大学史学会大会

▶2025 年 6 月 14 日(土)

総会 9 : 30～10 : 50 (総会は普通会员のみ)

大会 11 : 00～17 : 45

* 総会・大会は対面にて開催します (入場無料、事前申込不要)

総会 : 学習院大学中央教育棟 503 教室

大会報告 : 学習院大学中央教育棟 501 教室・502 教室

ミニシンポジウム : 学習院大学中央教育棟 301 教室

懇親会 : 百周年記念会館



▶研究報告

第 1 部 11:00～12:00

植民地化初期のアルジェリアにおけるアラブ・ベルベル系部族とフランス軍

齊藤 啓介 (大阪大学大学院人文学研究科博士後期課程)

海老名弾正のキリスト教信仰の転換点―「海老名弾正資料」に注目して―

小山 詩織 (学習院大学大学院人文科学研究科博士前期課程修了)

第 2 部 13:00～14:00

朝鮮牛の軍需化と植民地企業―戦時体制への組み込みをめぐって―

蔣 允杰 (学習院大学東洋文化研究所助教)

明治初年における維新政権の人材登用政策

手倉森 結南 (学習院大学大学院人文科学研究科博士後期課程)

第 3 部 14:10～15:10

帝政期ローマの社会構造と諸社会身分―構造的把握のための一試論―(仮)

金田 馨 (学習院大学大学院人文科学研究科博士後期課程)

近世後期武家社会における大名と旗本の交際 ～加賀藩前田家「出入」旗本の研究～

山田 拓実 (学習院大学大学院人文科学研究科博士後期課程)

▶ミニシンポジウム「日東西の文書の比較史は可能か」

基調講演 15 : 25～16 : 25

日本・中国・西欧における文書伝来状況の違いとその背景

坂上 康俊 (九州大学名誉教授)

コメント・全体討論 16 : 35～17 : 45

コメント

関尾 史郎 (東洋文庫研究員・新潟大学名誉教授)

島田 誠 (学習院大学文学部史学科教授)

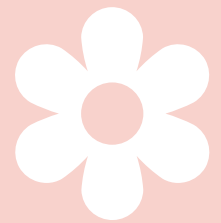
司会

鐘江 宏之 (学習院大学文学部史学科教授)

主催 : 学習院大学史学会 / 共催 : 学習院大学文学会

お問い合わせ : 〒171-8588 東京都豊島区目白 1-5-1 学習院大学文学部史学科研究室内

E-mail: g.shigakukaitaikai1192@gmail.com HP: <https://www-cc.gakushuin.ac.jp/~hist-soc/>



▶研究報告概要

第1部 11:00 ～ 12:00

植民地化初期のアルジェリアにおけるアラブ・ベルベル系部族とフランス軍

齊藤 啓介 於 501 教室

植民地化と同時に「アルジェリア」社会がひとつの体制へと変化したわけではない。フランスによる侵攻は、複数の文化や記憶が積み重ねられてきたマグリブにあらたな層を加えるものであった。本報告では、植民地化初期のアルジェリアにおいて、フランス軍によって創り出されようとしていた秩序の前段階としての植民地政策と、アラブ・ベルベル系社会や部族の活動の関係について考察する。

海老名弾正のキリスト教信仰の転換点―「海老名弾正資料」に注目して―

小山 詩織 於 502 教室

キリスト教徒海老名弾正の信仰の生涯における転換点を同志社大学人文科学研究所所蔵の「海老名弾正資料」をもとにたどる。今回は史料群の中でも回想録に注目しながら、海老名の幼少期・キリスト教入信・「第二の回心」と呼ばれる神秘的体験を取り上げ、その内容がどのようなものであるかを検討する。そしてこれらの三つの経験が、海老名の信仰において重要視されるべき理由を、彼のキリスト教的思想にも触れつつ述べる。

第2部 13:00 ～ 14:00

朝鮮牛の軍需化と植民地企業―戦時体制への組み込みをめぐる―

蔣 允杰 於 501 教室

本報告では、1930年代の戦時体制下において、牛という資源がいかに軍需へと再編されていったのかを、朝鮮皮革株式会社の展開を通じて検討する。特に、同社が軍需指定工場として制度的に組み込まれ、軍の直接管理下で民需から乖離していく過程を追うことで、植民地企業が日本帝国の戦争動員体制の中で果たした役割を具体的に明らかにする。

明治初年における維新政権の人材登用政策

手倉森 結南 於 502 教室

徳川慶喜が大政奉還を行った後に成立した維新政権(後の明治政府)は、その人的基盤を全国諸藩の藩士を登用することで固めていった。廃藩置県以降、彼らは官僚となり、様々な諸政策を担う存在となっていく。本報告では、成立直後の維新政権が行った人材登用政策である「徴士制度」に着目し、登用過程や人的構造を検討することで当該期の人事の特質について考察する。

第3部 14:10～15:10

帝政期ローマの社会構造と諸社会身分―構造的把握のための一試論―(仮)

金田 馨 於 501 教室

ローマ社会の性格に基づくモデル化、あるいは諸社会集団の構造的把握は、ローマ社会の特質把握のための基本的問題である。この諸社会集団のうち、騎士身分は、ローマ史における諸社会集団の中で最も研究されてきた集団のひとつであり、政治体制の変化の過程を論じるうえで重要視されてきた。本報告は、この騎士身分に注目して、帝政期ローマの社会構造に関する試論をこころみるものである。

近世後期武家社会における大名と旗本の交際 ～加賀藩前田家「出入」旗本の研究～

山田 拓実 於 502 教室

近世武家社会研究において、大名間の交際(両敬や通路、不通など)については、解明が進められてきた。その一方で、大名が旗本との間で行った交際を正面から分析した論稿は、管見の限り見当たらない。大名と旗本との交際は、幕藩間の政治ルートに発展し得るという点でも重要な意義を持ったことが想定される。よって、この交際について検討するのが本報告である。

